

元氣！生き生き女性研究者・公立大学モデル

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：大阪府立大学（総括責任者：奥野 武俊）

プロジェクトの概要

理事長を長とするステアリング委員会のもと、女性研究者支援センターを設立し、全部局の構成員からなる運営委員会を設置して具体的な取組を行う。センター外部には有識者で構成する評価委員会を置く。環境整備として相談窓口・メンター制度・保育室を創設し、勤務時間配慮や研究支援員配置等の支援環境を整えとともに、IT 機器を活用した在宅勤務支援等の情報基盤整備を行う。意識改革はカリキュラムや講演会等により全学的に行う。キャリアパス構築のためロールモデル・バンクを創設し、併せて、これを大阪府の施策と連携させ地域貢献を図るとともに、理系選択女子の裾野拡大にも活用する。情報基盤整備には IT 機器を活用する。以上により、全学的に環境と意識を変革し、全学で理系女性研究者を支える体制を整え、公立大学として地域貢献を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者のニーズに対応し、学内保育施設の整備、育児期の研究支援員の配置、相談窓口の設置等の取組を行い、研究と出産・育児を両立するための十分な環境を整備したことが評価できる。学内保育施設は男性教員の利用実績も高く、研究者全体のニーズに即した取組であったといえる。今後は、女性研究者の離職の要因の分析、任期を付した職により採用した女性研究者のキャリアパス支援に取り組むことを期待する。

- ・ **目標達成度**：学内保育施設の開設、研究支援員の配置等、環境整備に係る目標を達成しており評価できる。しかしながら、理系女性研究者数の増加、大学院理系博士課程修了者の女子学生比率等の目標は達成できていないことから、要因分析を行い、対応策を取ることが必要である。
- ・ **取組**：保育施設の開設や研究支援員の配置といった環境整備の取組、女性限定教員公募やインセンティブ付与（プラスワン制度）といったポジティブ・アクションが評価できる。メンター制度は、体制が整備されたところであり今後の効果的な運用を期待する。

- ・**システム改革**：女性研究者支援のために多くの制度改革を進めたことが評価できる。理系女子大学院生チーム（IRIS）によるアウトリーチ活動は、女性研究者の裾野拡大に繋がった。今後は、理事長・学長の更なるリーダーシップの発揮と、部局長の積極的な参画により、さらなるシステム改革が推進されることを期待する。
- ・**実施体制**：理事長を委員長とするステアリング委員会の下、女性研究者支援センターを設置し、バランスの良い運営体制を構築したことが評価できる。今後は、担当副学長の配置により、実施体制が強化されることを期待する。
- ・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施体制を継続し、十分な予算を確保することによりほぼすべての取組を継続しており評価できる。今後も取組を継続、発展させ、公立大学におけるモデル事業となることを期待する。